

12月4日に皇居内、大嘗宮を拝観してまいりました。

天皇が即位後、初めて新穀を皇祖及び天神地祇にお供えになって、みずからもお召し上がりになり皇祖及び天神地祇に対し、安寧と五穀豊穡などを感謝されるとともに、国家・国民のために安寧と五穀豊穡などを祈念される儀式を大嘗祭といいますが、その儀式を行うための祭場を大嘗宮といいます。

大嘗宮は、悠紀殿、主基殿という二つの中心的な建物で構成され、ここで行われる「大嘗宮の儀」は、「悠紀殿供饌の儀」と「主基殿供饌の儀」から成ります。

今回、悠紀殿供饌の儀は令和元年11月14日の夕方から夜にかけて行われ、主基殿供饌の儀はその翌日の11月15日の暁前に行われました。

皇位の継承があったときに挙行される、皇室の長い伝統を受け継いだ皇位継承に伴う一世に一度の重要な儀式です。そして、その建物群は、祭儀後は取り壊されるのが慣例です。

ひとめこの目で大嘗宮を見たいと集まった人々は、一般参観が許された18日間で約80万人を数えました。12月4日当日も晴天に恵まれ、多くの人を訪れておりましたが、私たち御嶽教一行も、何とか人混みをかき分けて間近に悠紀殿、主基殿を拝観させていただくことが叶いました。

実物の建物は、映像で見るより緻密な感じがして、工事関係者の気配りが感じられるものでした。悠久から続く質素な造作の中にも、確かに神々しい雰囲気漂わせて凛と建つ姿は、日本人なら誰でも自然と手を合わせたくなる唯一無二のものでした。



